



# 関西支部会 会報

KANSAI

三医会関西支部会事務局

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町2-20-21  
医療法人 杉本眼科  
杉本 浩一  
TEL 06-6624-1985  
FAX 06-6624-6291



「患者中心」への医療に向けて意識の変革が強く求められる時代となつて来ました。母校も国立法人化され様々な難局を乗り越えて法人組織としての新たな飛躍が期待されています。平成18年2月駒田美弘教授（S51卒）が医学部長に就任されて大学の医学部として「教育・研究分野の重視」と地域の基幹病院としての「付属病院が患者さんから信頼と安心が得られる医療の提供」を充実する事によって「魅力ある医学部」を目指しておられる事を同窓生として嬉しく思っています。三医会関西支部として三医会本部との連携の推進に努めてきました。昨年12月には三医会本部の開催された忘年会に出席し、医学部や三医会本部の先生方と親しく懇談しあるい情報交換の絶好の機会となりました。また6月18日（日）津市で開催された三医会総会に出席し、総会議長の大役を務めると同時に関西支部の活動状況について報告を行いました。2月19日（日）には滋賀県の先生方の担当で新都ホテル（京都市）に於いて約50名の先生方が出席して下さって支部総会が開催されました。役員人事の面でもかなり若返り平成年度の先生方が多数就任して頂き、私を支えて下さいますので大変心強く思っています。おめでたいことに清水猛史先生（S58年卒）が滋賀医大の耳鼻咽喉科の教授として母校からこの度就任されその祝賀会も兼ねて行われました。清水先生の今後の「」活動を祈念するとともに支部への協力を宜しくお願いしたいと思っています。

6月4日（土）には大阪で三医会関西支部の先生方と三重大学医学部の学生さん達（M4～M6）との若いみなさんの懇談会を開催しました。2004年度より始まった「卒後臨床研修」の必修化に伴い次年度関西地区での研修を予定している学生さん達に研修病院の状況を教示することによって、より良い環境の下で研修に専念して貰えればと言う同窓会としての羅針盤的な役割を果たす事が出来たと思っています。来年の2月18日（日）には大阪地区が担当して支部総会が百楽（天王寺区上本町六丁目）において開催いたします。本部からも川原田会長、新任の片山教授（田第一内科、S55年卒）が出席して下さるまゝ。多数の先



杉本 浩一（昭和42年卒業、大阪市）

「」挨拶



## 滋賀医科大学に赴任して

清水 猛史

祝 滋賀医科大学耳鼻咽喉科講座 教授就任 清水 猛史 先生



生方が「」出席して下さつて活発な総会・懇親会となるようにお願いします。「」これからも余眞の先生方の「」支援の下で一生懸命努力して関西支部の活動を推進させて頂きたく思っていますので何卒「」協力の程を宜しくお願ひ申し上げます。

この数年で、独立行政法人化や卒後臨床研修の導入など、国立大学病院を取り巻く状況は大きく変化し、年々厳しさを増しています。卒後臨床研修の影響で、着任以来3年間入局者がない状況にありながら、病院からは収入増を求めるは、同窓会の不思議であります。耳鼻咽喉科や同じ大学だけでなく、広い横のつながりができる」とは、私にとって貴重な財産になりました。

滋賀医科大学耳鼻咽喉科はまだ若い医局ばかりで、それぞれが少しずつ伸びをしながら努力している状況です。負担も大きく、肉体的にも精神的にもきつい状態だと思いますが、若い先生には自分の能力を伸ばす絶好の機会だと感じ、学会や講習会への参加や他施設との交流を積極的にすすめて、常に一段階高いレベルの診療を追及して欲しいと思っています。

今後も三医会の先生方には何かとお世話になることが多いと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。私でお役に立てることがあれば、いつでも遠慮なくご連絡ください。メールアドレスは次の通りです。

Shimizu@belle.shiga-med.ac.jp

## 卒後研修の現況

神戸市立中央市民病院心臓血管外科 岡田 行功

神戸市立中央市民病院では從来から前期研修医2年、専攻医（後期研修医）3年の制度を採用してきたが、3年前よりスープーローテートによる2年間の前期研修医制度が発足した。前期研修医2年で32人、後期研修医3年で50人余が現在研修している。一方、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、および小児外科を専攻する研修医は一般外科専門医の単位修得の後に各専門分野の専門医修得コースに所属することとなる。したがつて、当科ではスープーローテーターが回ってくることはないが、後期研修医制度のなかでスープーローテート後の3年目の研修医は一般外科を中心に研修することとなり、一般外科専門医修得後、おそらく6～7年目の研修医が心臓血管外科専門の研修を受けることとなる。こうした研修システムは発足したところであり、その成果は少なくとも5～6年は待たないと得られないと考えている。前期研修医制度も固定したものではなくフレキシブルな対応が迫られている。来年度からの前期研修医制度では一般外科2ヶ月間を一般外科1ヶ月間、その他の外科系標榜科に1ヶ月間といった制度になる可能性がある。これは研修医を受け入れる教育側のスタッフ不足からきている大きな問題である。

研修病院の責務としては医師として必要な素養、知識、技能の教育に熱心であることが第一条件であるが、研修医にとって魅力のあるプログラムを提供できる体制を整えなければならぬ。インターネットの時代のなかで研修医相互の連絡は極めて密接であり、研修病院の評価はインターネット情報の中にあると考えて良いであろう。

毎日の臨床の中では回診や手術説明などで患者さんへの対応の仕方を知つてもらい、カンファレンスや手術室で疾患に対する知識・外科的技能の教育を心がけているが、研修医から研修単位修得の状況を2～3ヶ月毎に連絡してもらいつながら試行錯誤の毎日が続いている。外科系、特に心臓血管外科を専攻する若い医師が少なくなっている現況では、心臓血管外科を専攻して良かったと思つてもうえるように、自身が楽しく元気に働くことを心がけている。



## 研究留学の機会を得て

辻川 薫（旧姓宮本）  
(平成5年卒業)



## 後期研修が始まり…

京都桂病院 糖尿内科 林 真有  
(平成5年卒業)

私は、大阪大学眼科の田野保雄先生、不二門尚先生の下に学びました。初期研修制度の第一期生である我々は、3年目の進路により、平成14年春から17年夏までの3年4ヶ月をアメリカボ



市立小野市民病院内科 陳 慶祥  
(平成7年三重大学卒業、神戸大学内分泌代謝内科所属)

## 三重大医学部の学生諸君との懇話会に参加して

（平成7年三重大学卒業、神戸大学内分泌代謝内科所属）

ストンで、研究留学させていただきました。臨床では小児眼科が専門で、未熟児網膜症の病因に興味がありまして、モデルマウスの作成に関わる研究をしておりました。

ボストンという街は、ヨーロッパの建物が並び、歴史的に有名な名所、旧跡、美術館があります。また、ハーバード大学、タフツ大学、ボストン大学といった有名どころの医学部があり、その他短大にいたるまで、沢山の大学があるところなど、まさしく姉妹都市である京都を思わせます。

一時的にでも、外国に住むとともに

ごしておりました。

そして数ヵ月後には、三重大でがんばっておられる皮膚科の山中先生が来られ、数年後には、既にアメリカで生活されている石原先生が研究をされるということで、同期3人がボストンで再会という楽しい経験もさせていただきました。

アメリカで一番驚いたのは、「人間の生活とは」のようなものだったのか?」と、自分が再認識したことです。緯度が高く、日照時間が長いせいもありましたが、明るい時間に帰宅し、家族との時間を過ごし、週末は休養し、バケーションは普通に取れる日常に、違和感を抱いてしまった日本の医師としての生活はどうです。しかし、このような時代になつても、三重大から外に行く卒業生の不安は昔と変わらず、「果たして差別はないのだろうか?」といふ声がわざわざ聞かれました。答えは簡単、制度がどう変わらうと、いつの時代も要は自分次第だと思いま

す。ある研修医にとつていい病院が別の研修医にとつていいとも限りません。人気のある市中の大病院が必ずしもその人にとつて働きやすいとは限りません。大学病院や小規模の病院、地方の病院などの研修も決して劣つてはいるとは言えません。国家試験の勉強で多忙だと思いますが、もっと広い視野で自分と相性の合つ病院を探しましょ。



受けた病院に残り、残りは医局に入つて大学病院勤務となつた者、自分で就職活動をし、新たな病院に個人契約で就職した者など。私は、医局に入局しそこからの派遣で現在の病院勤務が決定した。今の病院にも後期研修医が6人おり、医局からの派遣は自分のみで、残りは個人的に就職活動をし、勤務が決定したようである。どちらにしても後期研修医に変わりはないのだが。予測はしていたが、3年目は忙しさ倍増だ。一人当直、時間内の救急車当番、透析当番、外来、などの当番も押し寄せ、日々の診療もてんてこ舞い。しかも、初期研修医時代は、上級医と2人でさせてもらっていた当直も全くの一人になり、心細さと不安で押しつぶされそうです。平日も朝は5時くらいには自が覚め、朦朧とした意識のなかでも、今日はあの患者さんには「レとアレと指示出さなきゃ、検査これしひかなくては、お手紙書かなきゃなど、気持ちが休まる時がない。諸先輩方もこんな感じでしたでしょうか?なんだかしんどいな」と久しぶりに会つた同期に相談すると「自分もそうそう。3年生病だよ。」と。ちょっと救われた気がしたのでした。

まだまだ、未熟者で迷惑もいっぱいかけておりますが、日々頑張っておりますので、どうかこれからもよろしくお願い申し上げます。



### 新米研修医の奮闘日記

（平成18年度卒業）  
杉山 卓史

私は初期研修において、プライマリケア、すなわち高度で専門的な医療というよりも、まず巷にありふれた疾患の初期診療を習得したいと考え、中規模の市中病院での研修を選択しました。近畿中央病院はそうした病院の一つですが、研修医は1年目が8名、2年目が5名おり、研修医用の部屋が一つ用意されています。当初は400床余りの病院にしては研修医が多いように感じましたが、実際に研修が始まるとそれらが各診療科に割り振られるため、同時に同じ科をローテートする1年目研修医は多くても2人で、外科・麻酔科のローテーターは朝から夕方まで手術室にいることが多い、日中の研修医室は閑散としているのが日常です。

私は内科からローテートを始めることになりましたが、いざ病棟勤務が始まつてみると、あまりにも「動けない」ことに気づかされました。例えば、点滴の処方箋もろくに書けませんでしたし、看護師さんから入院患者さんの持参薬を継続するかどうか尋ねられても、聞いたことのない薬ばかりで、対応に窮しては指導医の先生にお伺いを立てていました。これまで国家試験のために勉強してきたことは一体何だったのかという思いに

者、自分で就職活動をし、新たな病院に個人契約で就職した者など。私は、医局に入局しそこからの派遣で現在の病院勤務が決定した。今の病院にも後期研修医が6人おり、医局からの派遣は自分のみで、残りは個人的に就職活動をし、勤務が決定したようである。どちらにしても後期研修医に変わりはないのだが。予測はしていたが、3年目は忙しさ倍増だ。一人当直、時間内の救急車当番、透析当番、外来、などの当番も押し寄せ、日々の診療もてんてこ舞い。しかも、初期研修医時代は、上級医と2人でさせてもらっていた当直も全くの一人になり、心細さと不安で押しつぶされそうです。平日も朝は5時くらいには自が覚め、朦朧とした意識のなかでも、今日はあの患者さんには「レとアレと指示出さなきゃ、検査これしひかなくては、お手紙書かなきゃなど、気持ちが休まる時がない。諸先輩方もこんな感じでしたでしょうか?なんだかしんどいな」と久しぶりに会つた同期に相談すると「自分もそうそう。3年生病だよ。」と。ちょっと救われた気がしたのでした。

まだまだ、未熟者で迷惑もいっぱいかけておりますが、日々頑張っておりますので、どうかこれからもよろしくお願い申し上げます。

駆られつつ、ポケットに忍ばせている薬品集を取り出しては、次のリベンジを心に期す今日この頃です。

私の初期研修はこのような悪戦苦闘の毎日ですが、病院で患者さんと接するにあたり、とても大きな教訓となつていている言葉があります。それは「患者さんが自分の家族だったら自分はどうするか?」です。これは4月にローテートを始めるときに指導医の先生から言わされた言葉です。自分はまだ駆け出しの研修医ですが、患者さんの医学的な側面だけを見るのではなく、心理的側面も汲み取って、トータルに患者さんをケアできる医師を目指し、今後も初期研修に当たつていこうと考えています。

### 関西支部総会および懇親会の報告

滋賀県副支部長 青木 建亮  
(昭和39年卒業)

本年度の関西支部総会は、滋賀県が担当となり、2月19日(日)に新都ホテルで30名参加にて開催いたしました。また、同時開催の懇親会は、昭和58年卒の清水猛史先生が一昨年滋賀医科大学の耳鼻咽喉科講座教授に就任されましたので、そのご就任をお祝いする会を兼ねたものとなりました。

三医会の本部からは川原田力也会長、教授会を代表して水谷仁先生にそれぞれお越し頂きました。川原田先生から同窓会の状況を、水谷先生からは大学の状況を、また、清水先生には教授就任の抱負などを話していただきました。そして、各出席者から近況の報告があり、和気藹々の雰囲気のなか、2時間余りの会を終了しました。来年度は大阪で開催されることになっています。



厚生係 小川 佳成

### 編集後記

師走の候、皆様お元気でお過ごしでしょうか。会報第2号が無事発刊となりました。杉本先生と西原先生の尽力の賜物です。また、ご寄稿やご協力を頂いた皆様にお礼を申し上げます。今回、この作業に携わらせて頂いて驚いたことは関西支部の会員数の多さでした。支部の歴史を考えると当然かもしれません、総会参加者数からは想像も出来ませんでした。意外な所に同窓の先生方がおられます。思わずところで知己が広がり、話が弾むかもしれません。一度、総会に参加しませんか。さあ皆さん、同窓のはがきの出席に○をつけてポストへどうぞ。

### 三医会関西支部事務局だより



#### 医療法人 杉本眼科 杉本 浩一

永い間三医会関西支部の事務局を担当して下さった石藏文信先生（S57卒）・石藏久美先生（S60卒）がご都合により退任されました。事務局はここ暫くの間支部長のところで担当させて頂きますので何かございましたらお気兼ねなくお問い合わせ下さい。

この3月に母校を卒業し、関西地区で約15名の新会員の皆さんが出発して元気に研鑽に励んでおられます。また2年間の初期研修を終了して関西地区的大学や基幹病院において3年間の後期臨床研修を開始された先生方も数多くおられます。若い先生方の今後の活躍に期待し、母校の名を大いに高めて頂く事を祈念しています。

平成19年の三医会関西支部総会・懇親会は大阪地区が担当します。小川佳成先生（S63卒）が中心となって2月18日（日）正午から百楽本店（天王寺区上本町6丁目）に於いて開催されます。三医会本部からも2名の先生が出席されます。多数の会員が出席して下さって盛大な会合となればと思っています。この様な同窓会に出席することによって、同窓生同志の様々な信頼のある情報交換を行って横の連携の絆がより一層強くなり素晴らしい三医会関西支部を目指して頑張って行きますので皆様方のご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

### 三医会関西支部役職者一覧表（敬称略）

◆支部長	杉本 浩一 (S42年)	◆監査役	庄村 東洋 (S36年)
◆副支部長（各府県1名）			安藤 仁郎 (S38年)
大阪府	蔭山 充 (S52年)	◆勤務医会代表の理事	布谷 隆明 (S49年)
京都府	石田 晟 (S39年)		岡田 行功 (S49年)
兵庫県	松原 隆 (S54年)		林田 孝平 (S50年)
奈良県	西川 勝仁 (S53年)		山形 高志 (S51年)
和歌山県	中村 光作 (S53年)		斎藤 徹 (S51年)
滋賀県	青木 建亮 (S39年)		陳 慶祥 (H7年)
◆専務理事		◆開業医会代表の理事	
総務	宇野 敦彦 (H5年)		細野 進 (S51年)
会計	猪尾 芳弘 (H7年)		倉田 順弘 (S54年)
厚生	譜久山 仁 (H10年)		山下 宣繁 (S53年)
	小川 佳成 (S63年)	◆名誉会長	杉山 茂男 (S24年)
	西原 承浩 (H元年)		高橋 章三 (S33年)